

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 令和4年1月17日<第1号>
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318
ホームページ <https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/10jikai/yosei/index.html>

東京教師養成塾は、東京教師養成塾連携大学や教師養成指定校、学校経営支援センター、区市町村教育委員会との連携を図り、東京都の教員に必要な豊かな人間性と実践的指導力を兼ね備えた人材を学生の段階から養成するために、東京都教育委員会が平成16年度に設置しました。今期で19回の入塾生を迎え、これまでに約2,060名が修了し、多くの修了生が東京都の教員として活躍しています。

「東京教師養成塾通信」は、東京教師養成塾の活動について広く知っていただくことを目的に発行しています。

●第19期東京教師養成塾入塾式

令和3年11月14日（日）東京都教職員研修センターにおいて、第19期東京教師養成塾入塾式を挙行了しました。東京教師養成塾連携大学の学生である第19期養成塾生77名が、これから始まる養成塾の講座や特別教育実習に大きな希望を抱き、緊張した表情で入塾式に臨みました。

当日は、東京教師養成塾の塾長である東京都教職員研修センター 増田 正弘 所長から、「児童・生徒と直接触れ合う特別教育実習は、東京教師養成塾の大きな特色であり、学校の実際を理解する上で貴重な学びとなることでしょう。これから始まる養成塾での学びを通して、皆さんが、『東京が目指す教育を実現』できる教員としての素地を身に付けていくことを心から願っています。」と激励がありました。

また、塾生代表から「時には、迷い、失敗し、立ち止まってしまうこともあるかと思いますが、これから出会う多くの人たちの姿に学びながら、決して諦めることなく、それぞれの理想の教師像への歩みを進めていきます。」と、決意の言葉がありました。

今後、第19期養成塾生は、29区市の小学校63校、都立特別支援学校11校の教師養成指定校における特別教育実習や講座を通して、教師としての使命感や実践的な指導力、柔軟な対応力等を身に付けていきます。



●第1回教科等指導力養成講座

令和3年11月28日（日）東京都教職員研修センターにおいて、第1回教科等指導力養成講座を実施しました。高瀬主任指導主事の挨拶では、受講の心構えとして、「課題意識をもって主体的・対話的で深い学びをすること」、「教科等指導力養成講座で学んだことを教師養成指定校における特別教育実習で実践することで、実践的な指導力や柔軟な対応力が身に付くこと。」の二つについてお話がありました。

○ 講話「養成塾生に期待すること」

小寺研修部長から、東京都の教育が求める教師像や教師に求められる資質・能力、東京型教育モデルについてのお話がありました。また、教育相談的な対応の具体的な例を基に、児童・生徒理解を大切にして、特別教育実習に取り組んで欲しいという塾生へのメッセージがありました。

○ 講義・演習「人権教育」

教育開発課佐藤統括指導主事から、人権教育プログラムの内容を基に、人権意識を高め、人権感覚を磨くことの重要性についてのお話がありました。

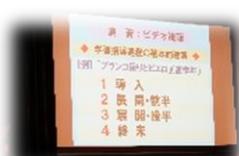
塾生は、人権感覚チェックシートを活用し、特別教育実習で特に大事なことについて交流することで、自身の人権感覚を見直しました。

○ 講義・演習「児童・生徒理解」

東京教師養成塾教授から、児童・生徒理解を図る上で必要となる教師の姿勢や十分に児童・生徒の実態を把握した上で、授業づくりをすることが重要であるという講義がありました。塾生は、児童・生徒への理解を図る上で特に大切にしたいことを考える演習を通して、特別教育実習に向けた目標を立てました。

○ 講義・演習「道徳科」（小学校コース）

東京教師養成塾教授から、道徳教育の目標や道徳科の授業の位置付け、内容項目等についての講義がありました。演習では、実際の授業場面の動画を視聴し、効果的な指導方法を考えることを通して、学習形態や発問、効果的な板書について学びました。



○ 講義・演習「特別支援学校の教育課程」(特別支援学校コース)

上石神井北小学校の泉田副校長から、特別支援学校の教育課程の法的根拠や、障害種別の各教科の目標及び内容についてのお話がありました。塾生にとって、講義内容と自分の担当する児童・生徒に照らし合わせながら受講することで、特別教育実習に向けた目標を考える機会となりました。



【塾生の感想より】

- 児童・生徒に愛情をもって接することが大切だと感じた。授業実践の際、「誰一人取り残さない」ということをこれからの課題にして臨んでいきたい。
- 人権教育や児童・生徒理解では、相手の立場に立って物事を考え、発言等をしていくことが大事だと分かった。そのため、児童・生徒の行動の背景や、相手がどのように思うのかを意識して実習に望む。
- 多角的・多面的に物事を見るのが大切だと学んだ。道徳科の授業を行う上で児童・生徒一人一人の考え方や感じ方があることを考えながら授業を展開できるようにしていきたい。
- 児童・生徒の障害の程度等に応じたカリキュラムを考え、各教科等を合わせた指導を行うことが必要だということ学んだ。

●第2回教科等指導力養成講座

令和3年12月19日(日)東京都教職員研修センターにおいて、第2回教科等指導力養成講座を実施しました。高瀬主任指導主事の挨拶では、挨拶の語源である「一挨拶」を例に、特別教育実習や教科等指導力養成講座では、自分から挨拶する意識をもつことが大切であるというお話がありました。

○ 講義・演習「授業づくり①」

東京教師養成塾教授から、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりについての講義がありました。塾生は、演習を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために必要となるキーワードを考え、塾生同士で交流することで、特別教育実習における授業づくりの基礎を学びました。



○ 講義・演習「国語①」(小学校コース)

東京教師養成塾教授から、国語科の目標や内容についての講義がありました。塾生は、単元を通して育成すべき資質・能力を育むために、既習の学習内容のつながりを踏まえ、適切な言語活動を設定する演習を通して、国語科における授業づくりの基礎を学びました。



○ 講義・演習「各教科等を合わせた指導①」(特別支援学校コース)

東京教師養成塾教授から、日常生活の指導について、授業づくりにおいて児童・生徒が「できる」をキーワードとし、学習意欲や自己肯定感を高めていくことが大切であるというお話がありました。塾生は、日常生活に必要な技能や知識を考える演習を通して、継続しながら習得を図る指導について学びました。



○ 講義・演習「コミュニケーション」

株式会社マネジメント・サポートの講師から、コミュニケーションの基礎や社会人として必要となるマナーや言葉遣い等について学びました。演習では、事例研究に取り組み、対応が必要となる場面における適切な報告の仕方について学びました。



○ 講義・演習「教師の魅力と責任①」

教育開発課大久保統括指導主事から、教師の魅力とやりがい、求められる資質・能力についてのお話がありました。また、魅力ある教師となるためには高い規範意識や使命感、責任と自覚が必要であるというお話もありました。

塾生は、緊張感のある真剣な表情で受講し、特別教育実習に向けた気持ちを新たにしている様子でした。



【塾生の感想より】

- 主体的・対話的で深い学びにつながる「知りたい」「やってみたい」という知的な好奇心や探究心を児童・生徒がもてるように、授業を展開することが重要だということ学べた。
- 身に付けさせる資質・能力に応じて適切な言語活動を考え、実践することが大切だと学んだ。
- 児童・生徒が今できることや工夫すればできるようになることを積み重ね、自己肯定感を高めることにつながる大切だと学んだ。
- 清潔感や相手を感じないと成立しないという言葉が印象に残った。相手の気持ちになってコミュニケーションを取ったり、身なりを整えたりしようと思った。
- 教師は魅力ある職だと改めて気付くことができた。それに伴い、強い自覚と責任感をもちながら職務や児童・生徒に接することが大切であると感じた。